

大型弾薬庫新設に反対してむつ市へ申入れを行いました

「反対する市民の会」共同代表に目時社民フォーラムしもきた代表らを選任！

海上自衛隊大湊基地内に建設が計画されている大型弾薬庫に反対するメンバーは8月15日に「大型弾薬庫に反対する市民の会」として正式にスタートすることを確認しました。具体的な会則や活動計画は今後、早急に整理することとしながらも主要役員の人選を終え、当面、むつ市長に対する申入れを行うこととし、当フォーラムが申入れ文案を作成し、世話人会で内容などを確認しました。申入れは、去る8月25日、むつ市に角本力企画政策部長を訪ねて申入れを行いました。

当日は選任されたばかり目時睦男（社民フォーラムしもきた代表）、吉田麟（年金者組合むつ支部代表）共同代表、村上準一（下北地域9条の会事務局長）事務局長

以下、各構成団体代表の8名が出席しました。冒頭、目時共同代表及び村上事務局長が申し入れの趣旨を説明し、若干の意見交換を行いました。後日、文書での回答を要請、この回答を元にあらためてむつ市当局と議論することを求め、市側もこれを了解しました。

むつ市側の姿勢としては市民が不安な思いを持つことには理解を示しつつも、概ね『防衛問題は国の専管事項』として、市民の不安解決に必ずしも積極姿勢でないことは感じ取られました。また、

折から海上自衛隊大湊地方隊の組織改編が報じられるなど市民の関心も高くなっており、今後はむつ市の回答を待つて具体的な行動計画を策定することとしました。



防衛省がむつ市の海上自衛隊大湊地方総監部に新設する大型弾薬庫を巡り、同市の「大型弾薬庫に反対する市民の会」（目時睦男、吉田麟共同代表）は25日、市に対し新設についての見解などを問う申し入れを行った。市側はおおむね1カ月以内に文書で回答するとした。

申し入れは「市の将来像を大きく左右する大型弾薬庫の新設をどう考えるか」「地域住民への説明や、防衛省に説明を求める予定は」「新設による市民生活への影響は」など9点。目時、吉田両共同代表らが市役所を訪れ、応じた角本力企画政策部長に、山本知也市長宛ての文書を手渡した。

関係者によると、大型弾薬庫は他国領域のミサイル基地などを破壊する反撃能力（敵基地攻撃能力）に用いる長射程ミサイルの保管を想定している。

市などによると、同省は2023年度に大湊弾薬整備補給所で2棟を建設するほか、さらに4棟新設のための調査を実施。計7億円を計上しており、2棟分は既に着工しているとみられる。

（工藤文一）

海自大湊の大型弾薬庫新設 市民団体 市に見解問う



角本力企画政策部長（左）に申し入れの文書を手渡す目時睦男（中央）、吉田麟両共同代表
8/26 デーリー東北
＝25日、むつ市

当市と同様に大型弾薬庫の建設計画のある大分市の陸上自衛隊大分分屯地敷戸弾薬庫に反対する住民集会（8月11日開催）に「大型弾薬庫に反対する市民の会世話人会」として連帯の激励のメッセージを送付しました。今後は双方で連絡を取りながら活動を進めていきます。

《次ページに申入れ内容などを記載しています》

《市民の会が大型弾薬庫に反対する主な理由～むつ市への申入れの前提として提起しました》

- ① 大型弾薬庫の新設は、施設自体の爆発事故や火災などのリスクを高める恐れがあり、地域住民のいのちとくらしに重大な影響を及ぼします。特に、予定周辺地域には学校や病院はもとより多くの住宅が存在し日常生活に大きな不安を与えることとなります。
- ② 当市は北方海域警戒の要として海上自衛隊大湊地方隊の他、釜臥山にはガメラレーダーJ/FPS-5などわが国の防衛上の重要な位置付けとされており。こうしたことから、大型弾薬庫の新設は政府の言ういわゆる“敵

国”からは格好の攻撃対象となる危険性があります。

- ③ 当市を含む下北半島には様々な原子力施設があり、また、わが国最大級の三沢米軍基地も100 km圏内となっています。こうした中、近年、北朝鮮ミサイル発射に伴うJアラートが話題となっています。こうした地域特性のリスクは他の都道府県の比較にならないほど大きなものです。もちろん、故意ではないとしても、ひとたび事故、トラブルが発生すればその被害は甚大なものとなる可能性があります。

《市民の会がむつ市へ具体的に回答を求めた内容》

- ① こうした当市の将来像を大きく左右する大型弾薬庫の新設について貴職はどのようにお考えなのかを伺います。
- ② 大型弾薬庫の新設について私たちは新聞報道以外、情報を入手することができません。貴職として地域住民に対して直接説明する予定、あるいは防衛省へ説明を求める予定はないのでしょうか。
- ③ 貴職として大型弾薬庫新設による市民生活への影響をどのようにお考えなのかお伺いします。
- ④ 現時点で工事の進捗状況をどのように捉えているのでしょうか。
- ⑤ 大型弾薬庫が完成した時点で弾道ミサイルなどの収納あるいは発射装置までの搬出経路などについてどのような形態でおこなわれるのか把握されているのでしょうか。
- ⑥ 大湊地域という特性上、将来的に弾道ミサイル搭載可能のイージス艦などの配備を懸念する報道なども目にしますが、こうした計画などについて聞き及んでおられるのでしょうか、また万が一こうしたことが行われようとする場合、貴職としていかなる対応をお考えでしょうか。
- ⑦ 建設予定地が現在の弾薬整備補給所とされていると聞き及んでいますが、今回の建設で補給所区域および周辺地域に設定されている区域に変更が生じるとお考えなのでしょうか。
- ⑧ このことにより周辺民家などの立ち退き要請や自主的な立ち退き事象が生じているような事実はありますか。
- ⑨ その他、本事業によりむつ市の様々な行政事業計画への変更などは発生するのでしょうか。また、地域の環境や動植物の生態系への影響への懸念などについてはどうお考えでしょうか。

防衛省大湊弾薬補給所周辺地域には、以下のような制約が存在する可能性があります。

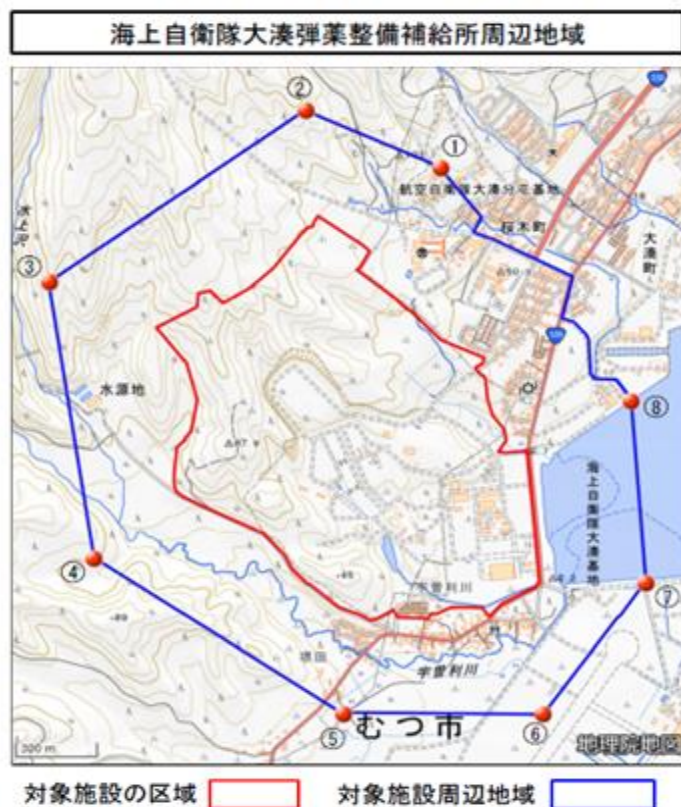
安全対策のための制約 弾薬補給所は軍事施設であり、安全が最重要視されます。周辺地域では、施設への不正侵入や周辺地域への安全への影響を防ぐために、立ち入り制限や監視体制が設けられている場合があります。

騒音制約 弾薬補給所では爆発物の取り扱いが行われるため、爆発音や爆発物の試験音など騒音が発生する可能性があります。周辺地域では、騒音制約や制限が設けられている場合があります。

飛行制約 近隣に空軍の基地や航空施設がある場合、周辺地域での航空活動に関して制約が設けられることがあります。これは、航空機の安全や弾薬補給所の安全を確保するためです。

土地利用制約 弾薬補給所周辺地域では、防衛省施設の存在を考慮して土地利用規制が行われる場合があります。建築物の高さ制限や商業施設の立地制限があります。

これらの制約は、弾薬補給所の安全性と周辺地域の安全・公共利益を確保するために設けられています。具体的な制約内容については、現地の自治体や関係機関の規制や法律を確認する必要があります。

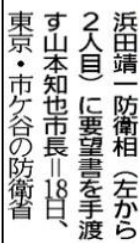


～大型弾薬庫新設の一方で大湊地方隊の合理化、この矛盾にむつ市などが防衛省へ要望書提出～

片や、弾薬庫新設、片や合理化計画、この一見矛盾する政策の狙いはどこにあるのか理解に苦しみます。

た。
(今井宗雄)

今回の要望も踏まえ、組織改編についてこれから丁寧



海上自衛隊大湊總監部

つきましては、大湊地方隊の防衛力向上及び有事の際の迅速な対応を可能とする体制整備に加え、大湊地方隊の安全保障の主体性確保の観点からも、大湊地方隊に配備される部隊で使用する船体、電気機器、レーダー・ソナー・通信機器、艦船用電線、推進システム（主機・動力系統）等の装備品に係る防衛産業を当市へ集積することについて御検討いただき御支援賜りますようお願いいたします。

むつ中間貯蔵施設保安規定認可！いよいよ新局面へ しかし操業のメドは不透明、まだ大きなヤマがいくつもあります

原発の使用済み核燃料を一時保管するとして国内初の「中間貯蔵施設」について、原子力規制委員会は8月28日、最後まで審査が続いていた施設の運用方法などを定める「保安規定」を認可しました。ただ、実際に核燃料を運び込める見通しは立っておらず、事業の開始時期は不透明であることに変わりはありません。

今後の課題として①原協定当事者間の安全協定の締結、②核燃料税問題の整理、③使用前検査、などが残されています。そして何より検査に使う使用済み核燃料を運び出すはずだった東京電力の柏崎刈羽原子力発電所で

は、テロ対策上の重大な不備が相次いで見つかり、原子力規制委員会から核燃料の移動を禁止する処分が出されています。このため核燃料を搬入できる見通しは立っていないのが実情です。

また、中間貯蔵後の搬出先が全く不透明で、このまま操業開始となれば、中間貯蔵は『永久貯蔵施設』へ変貌していくことは明らかなです。そもそも稼働中の原発がなく、その見通しも全くない東電や日本原電にとって、この時期に何百kmも離れた当地に大きなリスクを抱えて使用済み核燃料を搬送する必然性や緊急性はないのです。

操業「24年度上期までに」

むつ中間貯蔵 RFS、県と市に方針

むつ市のリサイクル燃料貯蔵（RFS）の高橋泰成社長は30日、青森県庁と同市を相次いで訪れ、使用済み核燃料中間貯蔵施設の事業開始時期について「2023年度下期から24年度上期を念頭に準備を進める」との考えを明らかにした。

しかし、核燃料搬入の見通しは立っておらず、操業開始は依然、不透明だ。

【3期に関連記事】

施設に対する原子力規制委員会の一連の審査が、28日に終了したことへの報告のため訪問した。宮下宗一郎知事、山本知也市長は共に審査が終了したことについて一定の評価を示した。

開始時期については、宮下知事が「23年度下期はほぼ難しいと思うが、24年度上期は可能性があるだろう」とこの認識を示した一方、山本市長は「これまでの暫定23年度から後退したと受け止める。確実に達成できる時期を主体的に示してほしい」と注文を付けた。

操業に向けては実際に燃料を入れた金属容器（キャスク）を使った最終検査が必要。しかし、搬入元となる東京電力柏崎刈羽原発（新潟県）は規制委から核燃料の移動禁止命令が出され、解除の見通しは立っていない。高橋社長は、開始時期について、こうした事

情を「全く考慮しない場合」とした。

RFSは移動禁止命令が解除された後、具体的な搬入計画を示す方針。

今後は県と市、RFSの3者による安全協定の締結を経て、最終検査に移る見込み。地元関係者によると、11年の東日本大震災を踏まえ、安全協定の内容はより厳格になるとの見方もある。

中間貯蔵を巡っては、20年に親会社である東電と日本原子力発電以外も施設を共同利用する案が浮上したが、市側が反発した経緯がある。高橋社長は山本市長への報告で「共用の認識は日本維新の会は30日、次

一切ない」と明言した。むつ中間貯蔵施設は、使用済み核燃料を原発敷地外で貯蔵・管理する国内初の施設。現在1棟が建設を終え、最終的に2棟、計5千トンを貯蔵する計画。

（工藤文一、岩淵修平）

8/31 デリー東北



宮下宗一郎知事（左手前）に事業開始時期を説明するリサイクル燃料貯蔵の高橋泰成社長＝30日、青森県庁

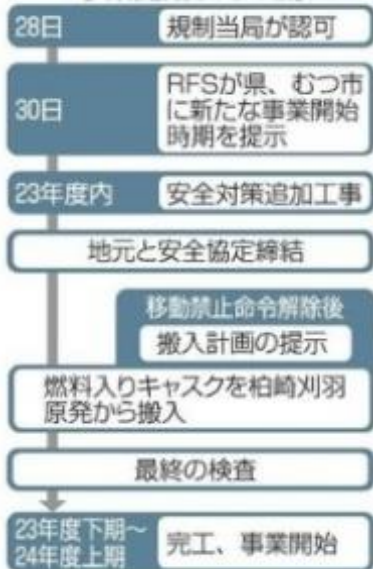
提示迫られ苦肉の新工程

事業開始時期の見極めは困難な状況にもかかわらず「2023年度下期、24年度上期を念頭に、今後の準備を進めた」とこの新工程が示された。

その宮下宗一郎知事が一石を投じた。RFSに向けて「見極められない」と言えないはずだ」と言及。むつに拠点を置く事業者の主体性と責任を問うた。RFS側は「できるだけ明確化を図った答え」を検討。規制当局への配慮も念頭に、具体的な時期の明示や、新工程を絞り出した。

「ぎりぎりのライン」（関係者）を引き、知事から「一定の評価」を得た。ただ、解除時期を見通せないことには変わりなく、障壁解消の道筋も今はまだ見えない。

むつ中間貯蔵施設 事業開始までの流れ



第30回浮島丸出港追悼集会が開催されました (8月22日)

集会終了後は建部玲子元県議による朝鮮問題の歴史を学ぶ講演会を行いました

終戦直後、京都府の舞鶴港で旧海軍の輸送艦が沈没し、下北地方で労働を強いられていた朝鮮人労働者ら500人以上が犠牲になった「浮島丸事件」の追悼集会が22日、船の出港地に当たるむつ市大湊浜町の市中央公民館で開かれた。

市民団体「浮島丸下北の会」が、船が出港した8月22日に合わせて毎年開いており今年が30回目。村上肇一会長(76)はあいさつで「不幸な歴史を繰り返すことがないよう、事件の検証は私たちの重要な役割。そして子どもたちに平和について伝える必要を感じている」と述べた。約20人の出席者は献花台に花を手向けた後、その花を公民館前の海に放った。

引き続き学習会を開き、建部玲子元県議が1990年に県議会一般質問で浮島丸事件を取り上げた際の話を紹介した。

浮島丸は45年8月22日、帰国する朝鮮人労働者やその家族、乗組員ら約3700人を乗せて釜山港に向けて大湊港を出港したが、24日に舞鶴港で爆沈した。政府の発表によると、朝鮮人524人、乗組員25人が死亡した。(熊谷慎吉)



あいさつする建部さん

歴史を正しく見ずして未来は無し ～建部玲子さんのお話より～

県議会で浮島丸事件を取上げた理由

- 議会の一般質問は公的発言として議事録に残ること。
- 歴史の事実を知事はじめ、県の当局者や与野党の議員に知って欲しかったこと。
- 国や県、日本の地方自治体も含めて加害者としての何らかの責任の意思を示すべきだと思ったこと。

植民地朝鮮でどんなことが起きたか

- 天皇直属の朝鮮総督と憲兵警察による恐怖政治
- 土地調査と収奪
- 教育文化政策の日本化、皇国臣民化、日本人より下の階層に位置付ける
- 創氏改名の強制
- 志願兵から徴兵制へ、戦争への総動員、強制連行
- 従軍慰安婦制度、言論出版の統制、その他

私たちが知っておきたいこと

- 南北分断は日本の責任であること
- 謝罪していない(戦後処理) こと
- 過去の歴史を教育していないこと
- 植民地にして『良いこともした』と発言する政治家もあること

第30回浮島丸出港追悼集会 むつ市長のメッセージ

本日、第30回浮島丸出港追悼集会にお招きいただきましてありがとうございます。他の公務が重なったため出席が叶いませんでしたので、皆様方にメッセージを送らせていただきたいと思います。

まず、第30回という節目となります浮島丸出港追悼集会は、先の大戦での厳しく貴重な経験から、「浮島丸」での犠牲者の皆様への追悼と「二度と戦争をしてはいけない!」「隣国との平和外交を!」を念頭として、これまで継続的に開催されておりますことに深く敬意を表します。

多くの尊い命が失われた浮島丸の大惨事から78年もの歳月が過ぎ去りました。故郷へ帰る日を待ち望み犠牲となった方々、そして故郷で帰りを待ちわびていたご家族の皆様にとって、その無念を思うとき、今なお深い悲しみが胸に迫ってまいります。犠牲者の皆様の命を巡る悲劇は、私たちに平和という貴重な資産を改めて守り抜くべきことを教えていただきました。

国際社会においてはロシアによるウクライナへの侵攻を目の当たりにして、私たちは再び戦争の脅威を感じざるを得ない状況となっております。ウクライナでは幼い子どもをはじめとする多くの命が犠牲となり、人々の平穏な日常が奪われる事態が起こっています。このような時であるからこそ、改めて、戦争の悲惨さと平和の尊さを深く心に刻み、その記憶を風化させることなく次の世代に継承していくことが私たちの責務であり、恒久平和の実現に向け努力を続けいくことが求められています。

私は、皆様方の想いにお応えするためにも、戦争のない世界を願うとともに、何よりもまず市民の皆様への命と暮らしを守ることを最優先に、そして次の世代を担う子どもたちが夢と希望をもって未来を切り開いていける社会の実現を目指してまいりますことを堅く心に誓います。未来を担う子どもたちに対して、命の尊さと平和の大切さ、戦争の恐ろしさを伝え、知識と理解を深め、共存と相互尊重の素晴らしさを認識していただくことが不可欠であると考えております。

結びに、今一度、浮島丸の犠牲者の皆様へ追悼の意を捧げますとともに、本日ご列席の皆様のご健勝ご多幸を心からお祈り申し上げます。

令和5年8月22日

むつ市長 山本 知也

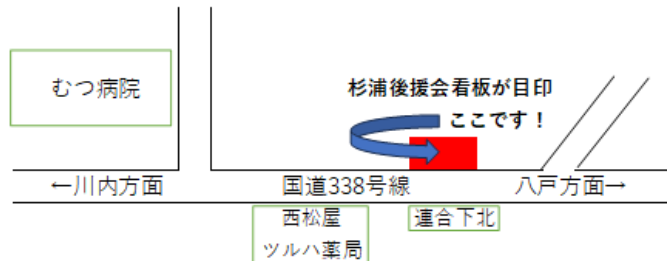
むつ市議選いよいよ始動！杉浦弘樹予定候補も精力的に活動スタート

8月26日、選挙事務所開きを実施、9月13日には決起集会も予定！

9月24日告示、10月1日投開票のむつ市議会議員選挙まで1カ月となりました。2期目の当選を目指す杉浦弘樹陣営はむつ市小川町に事務所を設け、専従事務員も配置しながら本格的に活動を開始しました。少数激戦の厳しい状況です。

26日には、升田世喜男立憲民主党1区総支部長や奈良祥孝同党県連幹事長などを迎えて事務所開きを行いました。狭い事務所でのスタートとなったため多くの支持者の皆さんにお声かけはできませんでしたが、是非ともお近くにおいでの際は激励方々のご来訪をお待ちしています。

【後援会事務所案内図】



〒035-0071 むつ市小川町1丁目6-4
TEL 0175 (34) 0885 FAX 0175 (34) 0886

前回（2019年）市議選得票状況

当落	候補者氏名	党 派	得票数
当	浅 利 竹二郎	自由民主党	1,899
当	大 滝 次 男	自由民主党	1,850
当	村 中 浩 明	無 所 属	1,506
当	山 本 留 義	無 所 属	1,485
当	白 井 二 郎	自由民主党	1,380
当	住 吉 年 広	公 明 党	1,331
当	富 岡 直 哉	無 所 属	1,283
当	杉 浦 弘 樹	無 所 属	1,258
当	鎌 田 ちよ子	公 明 党	1,148
当	斉 藤 孝 昭	無 所 属	1,140
当	浜 田 栄 子	無 所 属	1,118
当	佐 藤 広 政	無 所 属	1,077
当	工 藤 祥 子	日本共産党	1,033
当	原 田 敏 匡	無 所 属	1,000
当	佐 藤 武	日本共産党	986
当	東 健 而	無 所 属	952
当	佐々木 隆 徳	無 所 属	930
当	富 岡 幸 夫	自由民主党	882
当	佐々木 肇	無 所 属	881
当	佐賀英 生	無 所 属	860
当	岡 崎 健吾	無 所 属	854
当	野 中 貴 健	無 所 属	839
落	半 田 義 秋	自由民主党	786
落	野 呂 泰 喜	無 所 属	712
落	新 谷 泰 造	無 所 属	513
合 計			27,503



事務所開きで挨拶する杉浦議員



中央交差点で街宣中の杉浦議員

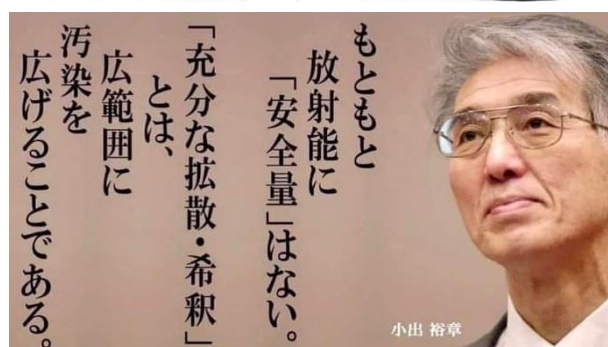
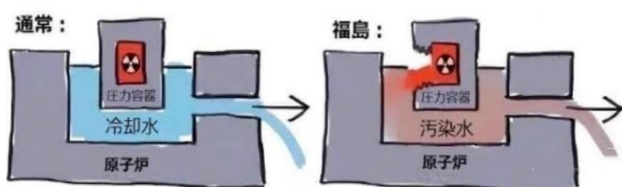
杉浦弘樹後援会決起大会

《と き》9月13日（水）午後6時30分
《と ころ》むつ市・来さまい館1階ホール



海洋汚染水排出も始まっちゃいました

普通の原発の汚染水とは違うんです



【編集後記】酷暑の連日で、さすがに日課にしているウォーキングも一時休止の8月でした。懸案だった「大型弾薬庫に反対する市民の会」も当会の目時代表の英断で事務局体制も確立でき、本格的に活動開始です。ただ軍事問題は殆どが機密情報であり、こじ開けるのはかなり困難です。まずは今回のむつ市への申入書の回答をベースに本格活動を考えています。今月は中間貯蔵施設問題でも大きく動きがあり、新局面を迎えています。しかし地元2紙とも操業開始時期についてはかなり懐疑的な論評です。もちろん安心するわけではないのですが、世界が脱原発へ向かい始めているのは確かで、時間稼ぎが私たちの理念を半歩でも前進させると勝手に思っています。先日は山口県上関町の中間貯蔵施設問題もあり、全国各地からの問い合わせや「東京新聞」からの取材もありました。（その結果が今回掲載された記事です）海洋汚染水排出もついにやられちゃいました。暑い夏はまだ続き、今月はむつ市議選です、むつ市政を監視する立場からも絶対落とせない選挙です。マイペースながらもうひと頑張りデス。（栗）